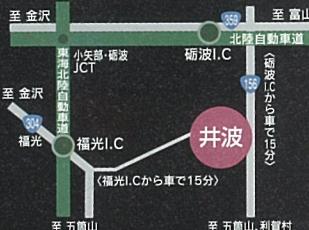


越中井波

神輿渡御

〈前夜祭〉5月2日 午後 6:30～御旅所
5月3日 午前 9:00～御旅所
午後12:00～東洋紡
午後 4:30～八日町通り
午後 5:30～井波八幡宮

5月3日（前夜祭 5月2日）



主催／井波八幡宮 いなみよいやさ祭り実行委員会

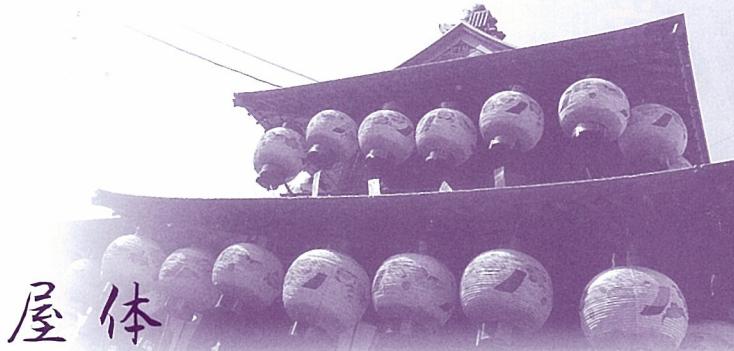
越中井波

よいやさ祭り

五月三日
(前夜祭
五月二日)

神輿

今から 175 年前の天保四年(1833)に神輿渡御が始まりました。渡御というのは、神輿に乗られた氏神が氏子の住む家々へお渡りになるという意味です。現在、四角、八角、六角の大の輿が三基と子の輿が三基あり、大の輿は四角(壱之輿)が一番先頭で次いで八角(弐之輿) 六角(参之輿)の順になっていて重量はどれも 1t 以上あります。この各神輿を約 40 名づつの力者が肩で担いで、御旅所から渡御を開始して氏子町内を巡回していきます。夕方、八幡宮に到着して境内を周回するときは最高潮に達し、神輿はそのまま宮社殿に突入します。



屋体

以前は七体の屋体がありましたが、現在は八日町、上新町、北川・北新町、今町の御殿屋体と中新町の踊り屋体の五体が町々を巡っています。春祭りの夜も更けると、御殿屋体の軒先に下がる提灯の明かりが優雅に揺れて、夜の街並みに三味の音や屋体唄が流れます。日中みられた賑やかな獅子舞や力動感溢れる神輿の渡御とは趣を異にする情緒ある風情をみせてくれます。

各町内の屋体は町内を巡回して、祝儀をいただいた家の前で新作の唄を披露します。短冊に書かれた屋体唄の歌詞は、屋体連から祝儀をいただいた家主に贈られます。

